

日 時：平成 30 月 10 月 25 日（木）18 時 30 分 ～19 時 55 分

場 所：小国コミュニティセンター

対象地区：小国

参加人数：14 名

■要望、質疑応答

内 容
<p>○新庁舎における職員の市から駐車場利用について (市民から)</p> <p>現在の本庁舎には、職員用の駐車スペースが十分に確保されている一方、来庁者が利用する駐車場が少ないと感じる。新庁舎には職員の駐車場は作られるのか。また、利用料は徴収するのか。</p> <p>(市から)</p> <ul style="list-style-type: none">・新庁舎には職員の駐車場を作り、これまでどおり利用料はとらない予定である。職員の大半が車通勤しているため必要性があると判断した。・新庁舎においては、市民の方にご利用いただく駐車スペースも十分に確保する。
<p>○新庁舎の雪対策について (市民から)</p> <p>新庁舎の設計はどこで会社で行うのか。雪国の事は地元の人でないと分からないこともあるかと思うが雪対策はきちんとされるのか。また、工事費がこれ以上膨らむことがないようにお願いしたい。</p> <p>(市から)</p> <ul style="list-style-type: none">・設計者は、ナスカという東京の会社と構（こう）という仙台の会社、八洲（やしま）という青森の会社の 3 社による共同企業体である。全国から募集し、12 社の応募があった中から選定委員会において 5 社を選んでいる。選定委員は、弘前大学、東北大学、秋田大学、八戸工業大学の建築に係る先生方と地元の設計業者、副市長、総務部長の 7 名である。その後、5 社によるプレゼンテーションを行い、その中から選ばれた。・雪については、青森の業者も入っており、3 階の吹き抜け部分も含め対策は講じられている。・工事費については、オリンピックや震災復興等の影響で材料が不足しているため、経費が高騰する可能性がある。また、免震装置のオイルダンパーのデータ改ざんの問題があり、これ以上工事費が増えないとは断言できない状況である。
<p>○新庁舎の維持管理費について (市民から)</p>

このコミュニティセンターには融雪システムが設置されているが、維持管理費用がかさみ現在は使用していない状況にある。このようなことにならないように注意してもらいたい。

(市から)

- ・新庁舎では、維持管理費用の削減につながるよう、地下水を循環する形での融雪計画を立てている。ご指摘されたようなことがないように注意して進めていきたい。

○東部地区と平賀地域を結ぶ交通機関について

(市民から)

何年も前から要望しているが、東部地区と平賀地域を結ぶ公共交通を整備してもらいたい。碓ヶ関地域にはバスを出しているようであるが、この地区への対策は進んでいるのか。

(市から)

- ・新庁舎建設を契機に、市内全域における公共交通のあり方について検討を進める。来年度にはアンケート調査を実施する予定で、その結果をもって検討を始める。検討される事項として、スクールバスの利用などが予想させる。

(市民から)

高齢となり免許を返還すると足がなく不便である。交通手段としてバスがあるが、行きは時間にあわせて行くが、買い物等をしていると帰りの時間があわなくなってしまう。バス会社に支払う金額を違う形で活用できるのではないかと考える。

(市から)

- ・自ら買い物に行くことが良いのか、配送してもらうのが良いのか、販売車が良いのか等アンケート結果により、どうすれば安心して暮らせるのか対応を考えていきたい。

(市民から)

緑青園で買い物バスを出すような話を聞いたが、市と連携して進めているのか。

(市から)

- ・市では認識していない。緑青園が指定管理している東部地区デイサービスセンターのサービスの一部としての話ではないかと予想される。

○小国薪炭林野共用林組合との契約について

(市民から)

昭和 45 年に旧平賀町と締結した部分林の契約について、伐期も近いことから確認したい。合併した現在も契約は続いていると理解してよいか。若い世代へも伝えるべき内容だ

と思っている。

(市から)

- ・碓ヶ関地域においても似たような事例があったため、他の契約についても確認している。本日は契約書を持参していないので、確認して町会長にお知らせする。

○一の渡発電所附帯施設の管理について

(市民から)

小国地区には、一の渡発電所へ続く露出した水路橋が6箇所ほどあるが、一部土砂により橋の下が埋まってきている。破損した場合には、大きな被害が出ると思う。補修したところもあるようだが、市では東北電力と話し合ったりしているものか。

(市民から)

土砂により橋の下が埋まった部分は、過去に市を通して県へ相談し、現場を確認してもらっている。その場所を保安林として対応することを検討したが、山の地権者と県との協議が上手くいかず、手付かずとなり現在に至る。この土砂は旧小国小中学校の校庭まで流れてきている。市で対応しているのは、その校庭の部分であり、水路については管財課が毎年泥上げしている。崩れた山の部分は手付かずのままである。

(市から)

- ・水路について、管理者を特定したうえで状況をお知らせする。

○県営事業の進捗状況について

(市民から)

神社の近くに倒壊した家屋があるが、国道の橋の付け替え事業により迂回路として使用するため、この家屋を整理するという内容を聞いた。地権者が亡くなったためか事業が休止しているようであるが、進捗状況について教えてもらいたい。

(市から)

- ・建設課に確認し、町会長へ連絡させる。

○人事評価の実施について

(市民から)

職員の中には一所懸命働いている人もいれば、そうでない人もいるかと思う。頑張っている人には給与を多く支払い、そうでない人は下げるといのようにメリハリを持たせた方が、職員も仕事のやりがいが違うと思う。

(市から)

- 人事評価については、数年前から試行をはじめ、平成 28 年度から本格実施している。昨年度の評価を今年の手当や昇給に反映させて進めている。
- 人が人を評価するということが、難しいところであるが続けてきている。極端に悪い職員についてはボーナス等へ反映させている。